

令和3年度 第二回学校運営協議会 議事録

|     |           |
|-----|-----------|
| 校名  | 府立東淀川支援学校 |
| 校長名 | 太田正義      |

|         |                                     |
|---------|-------------------------------------|
| 開催日時    | 令和3年 11月18日(木) 10:00~12:30          |
| 開催場所    | 大阪府立東淀川支援学校 図書室                     |
| 出席者(委員) | 奥山委員・岡委員・中上委員・寺田委員 (欠席:末浪委員・藤澤委員)   |
| 出席者(学校) | 太田校長・辻上教頭・岡崎教頭・加藤事務長・土井首席・石田首席・村川   |
| 傍聴者     | なし                                  |
| 協議資料    | 次第、委員名簿、令和3年度学校経営計画進捗状況、本校の地域支援について |
| 備考      |                                     |

|                   |  |
|-------------------|--|
| 議事等(次第順)          |  |
| 旧委員の退員の紹介、新委員紹介、  |  |
| 協議内容・承認事項等(意見の概要) |  |
| 指導教諭<br>委員        | 本校の地域支援について(別紙資料あり)<br>個別の教育支援計画の作成における入学から計画完成までどれくらいのタイムラグがあるのか?   |
| 指導教諭<br>委員        | 前籍校の情報と担任の検討4月~5月上旬→校内回覧5月中旬→保護者配布6月上旬<br>全児童生徒分(個別の教育支援計画)を確認することは大変ではないか。  |
| 指導教諭<br>委員        | 各学部の支援部、各部での校内回覧、管理職確認を行っている。<br>(個別の教育支援計画)中1~高3と子どもが成長しているが、実態と合わないなどのケースがあったようだ。  |
| 委員<br>校長          | 計画の見直しをシステムとして担保することが重要ではないか。<br>(学校経営計画及び学校評価 進捗について)<br>4つの計画 1教育内容 2センター的機能 3防災 4働き方改革<br>1,2はコロナ禍で遅れている面があり、これからの取組みに期待がある。<br>個別の教育支援計画、個別の指導計画の様式を改訂した。課題点もある。<br>個別の指導計画は評価をしっかりと書く。3観点で評価できるようにし、次の目標を立てる。現状はできていないところもあり、次に取り組んでいく。<br>GIGA スクール構想のタブレットは、今年度中に予定の残数が入ってくる。<br>ICT 推進チームを作り、内容についてどうするか検討している。研修にも取り組んでいる。<br>またセンター的機能については、コロナの影響があり、計画通り進んでいない。<br>1学期は地域支援相談数が少なく、相談件数が今後増えていくことが目標。<br>地域に向けた研修を行っている。居住地校交流は、希望はあるがコロナ禍により実施内容に課題があった。学校間の行事の時期が重なるなど。安全体制として、引渡し訓練を計画したがコロナ禍で中止となった。しかし、実際に臨時休校に伴い3回引渡しを行うこととなり、課題点の改善を図れた。通学に関する安全体制は、ルール作り等も視野に入れて、通学範囲での安全について検討中。ホームページは、情報を増やして努力している。見やすくしたいと思っている。専門的に活用できる人材を検討。4.働き方につい |

|    |  |
|----|--|
|    | ては、家庭訪問の実施方法を変更。校区が広く移動時間が必要となるので在校学年は懇談の形をとる。 起案文書の整理や簡素化等、時間外勤務の減少に努めている。  |
| 委員 | 地域からの相談支援が 20 件なのはなぜか？   |
| 校長 | 府下は 1000 件、知的は 100 件を超えるといわれる。大阪市はインクルーシブ推進室が地域の支援に携わって、派遣など対応している面がある。  |
| 委員 | 市の問題であれば学校が頑張っても効果が上がらないのでは。   |
| 校長 | 本校のできる範囲で行っている。  |
| 委員 | 学校と市の教育委員会と話し合うべきではないか。  |
| 校長 | そういう面もあるかもしれない。  |
| 委員 | 両立てになっているものは相談すべきではないか。  |
| 委員 | 支援計画の様式が新しくなったようだが、教育目標があいまいだと、できたかできていないかの評価が難しくなる。そのため目標をしっかりと立てることが重要である。フォーマットは大事なので、学校支援会議を行い、計画を作成するのが望ましいと思う。 |
| 委員 | 個別の支援計画に書かれた様子と実態が違うなど思ったことがある。  |
| 校長 | そのようなことがないために、マニュアルを作りわかりやすいようにしている。   |
| 委員 | ヒヤリハットの報告件数より事故報告件数の方が多いということで、ヒヤリハット報告の浸透はどのようにされているか。  |
| 委員 | 現状ではヒヤリハットと思うことが中々上がってこない。多忙な業務の中ヒヤリハットを入力するのが難しいのかもしれない。またどのような事例がヒヤリハット報告に該当するのかを伝えていく必要がある。                       |
| 校長 | ヒヤリハットでとどめて、事故に至らないことが大切である。   |
| 委員 | 事故とヒヤリハットの違いが明確でないことが要因かもしれない。どちらの報告も、職員会議で周知している。   |
| 教頭 |  |
| 委員 | 再発防止を主たる目標にすることが大切であるとともに、多忙でヒヤリハット報告ができないのであれば再発防止対策のアプローチを見直す必要があるのではないか。  |
| 校長 | 2つの定義づけを明確にしたい。内容が多岐に渡っている。事故は減ってきている。扱いについては検討していく。   |

|         |                  |
|---------|------------------|
| 次回の会議日程 |                  |
| 日時      | 令和4年2月18日（金）（予定） |
| 会場      | 大阪府立東淀川支援学校      |